

弊社の仕事

前回のかたいもんそで紹介させていただいた「**浚渫工事**」に続き、今回は「**管路更正工事**」についてご紹介させていただきます。

○管路更生工事とは・・・

高度成長期以降に大量に整備された下水道管が耐用年数を迎え老朽化が進み、全国では年間約3000件超の道路陥没が発生しています。しかしながら、管轄する地方自治体の財政も厳しく、取替工事に係る莫大な費用を捻出するのが難しい状況です。そこで既存の下水管を生かし、新設管と同等以上の品質で改良する工事のことを「**管路更生**」といいます。 管路更生工事にはいくつかの工法がありますが、今回弊社で施工した工法は「**パルテム・フローリング工法**」といいます。

この工法の特徴は、①様々な管の形状に合わせることができる②騒音・粉塵・悪臭が発生しない③掘削を必要としない（道路復旧費や交通渋滞の軽減）があげられます。



1. 事前調査

施工前に不良箇所・延長等を調査します。写真のように経年劣化により、コンクリートのひび割れ・剥離や鉄筋がむき出しの部分もあります。



2. 管内清掃

水路管内を高圧洗浄車を使って、隅々まできれいに洗浄します。



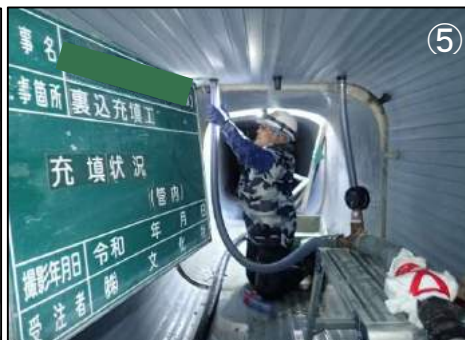
3. 鋼製リング組み立て

既存の管路の表面に鋼製のリング（写真の黒い部分）を組み立てます。

リング同士はボルトナットで連結されていて、最後にアンカーでリングを固定していきます。今回の水路は縦1.5m、横1.5m、で、総施工距離は42mを工事しましたが、鋼製リングは約700枚使用しました。

4. ポリエチレン部材嵌合(表面材敷詰め)

組み立てた鋼製リングにポリエチレン製の2種類の部材（かん合部材・表面部材）を組み付けていきます。（写真奥の光っている部分が表面部材）内面に組み付けた2種類の部材は1本が5mあり、今回の工事では約1500本を使用しています。ここまではすべて人が水路の中に入り作業してきます。



5. モルタル注入

最後に、新しくなった更生管と元の水路との隙間に工場で生産した充填剤（生コン）をコンクリートミキサー車で注入していきます。ミキサー車から搬出された充填剤は専用のポンプを通して、流量計で調整しながら注入していきます。

今回の更生工事で使用した充填剤は、県外工場で生産された特別なもので、ドロドロの性状のものです。翌朝には固まります。

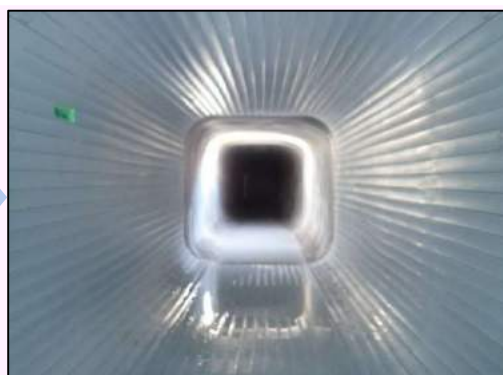
作業前・・・

水路は建設後40年近く経過し・・・
（赤い印は不具合箇所）



作業後・・・

近未来を思わせる水路に（笑）
耐用年数50年以上！



かたいもんそ

平成15年5月創刊 「かたいもんそ」は、<http://bunka-inc.jp> にてご覧いただけます。60号は令和3年2月1日より配布開始しています。

第
60号

発行所 株式会社 文化社

本社 鹿児島市新栄町22-26
TEL 099-256-0075
支店 日置市伊集院町1264-3
TEL 099-273-2588

先の自然災害で未だご不憫にある方への復興を祈念するとともに、コロナ禍で普段の生活をお支え戴いている医療関係の方々へ感謝の意を表します。

さて、2024年度壹萬円紙幣の表図柄、2021年NHK大河ドラマの主人公に決まっている方をご存じの方も多いと存じます。近代資本主義の父とされる「渋沢栄一」氏ですが、有名な著書に『論語と算段』があります。商売の原則に「論語」の教えを取り入れ、利益を求めると同時に仁義や道徳も求めることで経済と道徳の調和を説かれました。過ぎたる欲望にならないように、仁・義・徳という道理で制御するということです。

「自分さえよければいい」という「利己」のみでは家族、友人、社会までもその関係を破壊してしまいます。現在の異常気象や環境破壊は、万物の長である「人間」が地球環境を顧みず人間のみの「利の追求」の結果引き起こしたのかもしれない。それとは引き換えに、現在の快適な生活があることは否めませんが、今こそ「足るを知る」ことを実行する生活に戻るタイミングかもしれません。

お客さまの普段通りの生活がふだん通りであるようにサポートさせていただくことと同時に、その先にある鹿児島の川・海・自然を次世代へ繋ぐことを方針に掲げております。『排水インフラのメンテナンス』を通して地域に社会に貢献させていただくことを新しく入る社員とともに学んでおります。今日も生かしていただき感謝申し上げます。



社長：土屋 受九

学び 浄化槽保守点検業に係る研修会

10月28日、公益財団法人鹿児島県環境保全協会主催の「浄化槽保守点検業に係る研修会」に参加しました。この研修会は、令和2年4月1日からの改正浄化槽法の施行に伴い、鹿児島県浄化槽保守点検業登録条例及び同施行規則が改正され、有効期間ごとに1回、浄化槽管理士に、この研修会を受けさせることが義務となりました。今回はコロナ禍ということもあり1社当たりの人数制限があり5名での参加となりましたが、次回以降降順次、全浄化槽管理士を受講させる予定です。



学び 浄化槽維持管理技術研修会

11月6日、例年行われている浄化槽維持管理技術研修会に参加いたしました。今回は二社の研究発表があり、各社が使用している道具の紹介、それぞれのメーカーに合わせて工夫・改良を重ね業務の効率化を図っていることを学びました。弊社でも日頃の保守点検や清掃作業に様々な道具を使用していますが、個々人で違うものを使用している道具もある為、出来るだけ揃えることで「どの社員が訪問しても、同レベルの作業ができる」ように努めていきたいと思います。

浄化槽の維持管理業務に携わる私達は、日々の業務に常に問題意識を持ち、研究・改善をしながら地域の水質保全の一助になればと強く感じた研修会でした。



ボランティア 甲突川クリーン作戦

11月28日、「甲突川クリーン作戦」のボランティア活動に社員3名で参加しました。例年であれば7月に行われる活動ですが、コロナの影響により延期されていましたが、マスク着用で各社が密にならないようにエリア分けされた中での清掃活動となりました。時間も30分～1時間弱と長時間にならないように配慮されていました。

コロナ禍で様々なイベント等が中止になるなか、運営されたスタッフの皆様はご苦労されたのではないかと推察しましたが、早くコロナが収まり綺麗になった甲突川周辺を散歩できると良いなと思いながらの清掃活動となりました。



ボランティア ～ 八重棚田イルミネーション ～



▲明治期から今に残る八重の棚田



昨年から参加している八重の棚田イルミネーション「八重のきらめき」に今年も参加しました。設置した日は快晴でしたが、標高が高く少し風もあったため、ブルブルと震えながらの作業となりましたが、協賛されている会社の方々とともに談笑しながら楽しい時間を過ごしました。

前回の弊社のテーマは「ONE TEAM」でしたが、今回は「コロナニ マケルナ」。昨年はコロナウィルスによって学校・会社・家庭など社会全体が劇的に変化した年でした。ある調査会社のアンケートによると、「3密」「ソーシャルディスタンス」など外出時のストレスが増えたと答えた一方、「家族の大切さ」「医療従事者のありがたさ」を感じたなど、未曾有の事態だからこそ、再認識できたこともあったようです。

ワクチン接種も始まるようです。あと少し・もう少しの気持ちで「コロナニ マケルナ」！！

2月14日まで点灯していますので、防寒対策をしっかりとされて、気持ちはホッコリとしていただければ幸いです。



▲新聞にも取り上げていただきました（嬉）

逸話 ～ こおりやま 天ガラもん ～



◎天狗どんが持っていた八手にちなんで「八手山」のちの「八重山」と…
◎「神使池」、のちの「甲突池」、そこから流れている川を「甲突川」とよぶようになった

昔、郡山に、村人に会うと笑わせたり願い事をかなえたりする人懐っこい天狗どんがいた。山のふもとにおいしい湧水が出る小池があった。そこに動くものがあり、よく見てみると、それは美しい姿をしたガラッパさんが「ヒーヒーロヒッヒ♪♪…」とうたいながら、手で水をすくっては頭にかぶることを繰り返しながらお祈りをしていた。ガラッパは1年に1回お祈りをしていた。聞けばここからの水のおかげで命を授かっているお礼参りを毎年していたらしい。山の緑を守るために雲をよび雨を降らせ、それが麓の小池に集まり、川となってたくさんの命を守っていることを知った天狗どんは驚き、ガラッパさんのお祈りに深く心を打たれた。天狗どんがガラッパさんを頂上のすみに案内すると、ガラッパさんは初めて見る素晴らしい眺めに感嘆した。それからガラッパさんが来たときの山は賑やかでお祭りのような騒ぎになったそうです。いつしか二人の間にかわいい男の子が生まれ、天狗どんの天とガラッパさんのガラをとって「天ガラもん」と名付けられた。大きく成長した天ガラもんは親をたすけ、八重山と甲突池を守り続けたそうです。

歴史 ～ 鶴丸城 御楼門（ごろうもん）～

昨年4月、鶴丸城後の東門に「御楼門」が完成しました。鶴丸城は1601年、18代当主家久が建設に着手した居城で、天守閣などのない屋形作りでした。

これは「城を以って守りとなさず、人を以って城となす」という薩摩藩流の思想に基づくものですが、門だけは豪華絢爛にとの考えで、この御楼門ができたそうです。この御楼門を通れたのは公式行事や身分の高い人しか通れなかったそうで、あの天璋院篤姫も2ヶ月ほど鶴丸城に滞在したことがあったそうですがこの御楼門を通ったという資料はないそうです。

明治6年、火災で焼失した御楼門ですが、それ以前に撮られた写真などから復元できることが確認され、2013年に「鶴丸城御楼門建設協議会」が発足し、官民一体となり、総工費約11億円をかけて完成したそうです。このうち約6.2億円は民間の寄付によるものです。弊社も微力ながら協力させて頂きました。

この御楼門は、高さ・幅とも20mで、国内最大級との事。



正面裏の寄付石盤▲ ライトアップされた御楼門▲

絵本「まみちゃんのなみだのあじ」

第5回鹿児島市児童書出版助成対象作品に選ばれた「まみちゃんのなみだのあじ」。この絵本の挿絵を弊社のお客様が書かれましたので、ご紹介させていただきます。

昔、鹿児島では「お婆さん」のことを親しみを込めて「ばっばん」と呼んでいました。昭和40年代前半の戦後復興の中で、貧しくも明るく暮らす子供たちと、近所に住む優しいばっばんとの交流を描く実話に基づく作品です。

地域で助け合い、人と人との絆が強かった人間味溢れる時代の情景を、素朴な鹿児島弁と味わい深い挿絵が懐かしく感じられます。



● 本文(あらすじ)

まみちゃんはしっかりものの5歳の女の子。ある朝、一人で幼稚園の準備をしていると、弟のよしちゃんが幼稚園の大事なおたよりを破ってしまった。悲しくて涙がとまらないまみちゃんの元へ、近所に住む優しいばっばんが現れて…。いつもごつごつした大きな手でまみちゃんの涙をふいてくれるばっばん。ばっばんの優しさが、まみちゃんのなみだのあじを変えていく。

● 著者紹介

作/南 善文（みなみ よしふみ）
1963年、鹿児島県生まれ。約30年会社員として勤務後、48歳で鹿児島中央看護専門学校に入学。51歳で看護師国家資格を取得。公益財団法人慈愛会「谷山病院」の看護師を経て現在、同法人の就労支援センター「ステップ」施設長。少年期より書き続けた作品で、『息子の応援団長』第29回PHP賞ほか、自伝小説『悠久の笹舟』（アジア印刷株式会社）等、100編を超える。

絵/益山素々（ますやま すず）

2001年、鹿児島県生まれ。鹿児島大学在学中。趣味はソフトボール・料理・裁縫など。幼少時から絵を描くことが好きで、今回、南善文氏の勧めで絵本作りに初参加。

ボランティア ～ 献血に行ってきました!! ～



9月30日、先般の災害への「復興支援活動を！」と心づもりをしていたのですが「県外からの受入れしない」とのことと、できる貢献がないか検討していたところ、コロナ禍の外出抑制により「血液不足」の情報を得ました。ならばと「献血プラザかもいけクロス」に社員10数名で献血に行ってきました。コロナ禍による献血者減少により輸血用血液がひっ迫していたようです。

献血された血液は各種検査の後、必要な成分ごとに生製されるとの事。現在の輸血医療は必要な成分のみを輸血する成分献血が主流で、不慮の事故等に使用されるよりはガン患者に約4割が使用されるとの事でした。また使用する方の85%が50歳以上との事。年齢の当てはまる筆者Yは、「献血しておいて良かった」と少しほっとしました。（笑）献血ルームではスタッフの方々が明るく丁寧に対応してくださり、漫画やパソコン・無料のお菓子や飲み物まであり、「自宅のリビングより快適！」と思ったのは筆者だけかも(^_^;)。

献血をすることのメリットは、簡易的な健康診断となること、体が新しい血液を作ろうとするので人によっては、ポカポカしてくるのだそうです。また、一番は「良いことをしている気持ち」になれることではないでしょうか？ぜひ、一度献血に行

ご連絡 ～ 松元出張所開設 ～

以前より、本社のある鹿児島市の中央地区からすると、お客さまのお住まいが郊外へ郊外へと多く拡がるようになりました。現場への往復移動時間が1～2時間、かかる状態を改善すべく、旧日置地区のほぼ中心にあたる松元に出張所を設けました。この拠点からのお客さま宅へお伺いする社員も出てくると思いますので、よろしくご連絡しておきます。（事務員等の常駐はありません。）

